

令和元年度 第3回香南市産業振興計画策定委員会 【議事録】

- 日時 : 令和2年1月29日(水) 10:00 ~ 12:00
- 場所 : 天然色劇場 リハーサル室
- 出席者 : 40人(策定委員15人・市職員22人[市長含む]・傍聴3人)

1. 開催目的

- ・ 第2期香南市産業振興計画の策定に向けて、各分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者に出席いただき、分野を超えた横断的な議論を交わす。

2. 議題

- ・ 第2期香南市産業振興計画(案)について

3. 内容

- ・ 次第に沿って進行
- ・ 第2回香南市産業振興計画策定委員会でいただいたご意見等を基に開催された各分野別部会の協議内容と第2期計画の数値目標、戦略の柱について各分野別部会長よりご報告をいただく。
- ・ 各事業のKPIについて事務局より説明。
- ・ 上記のことについての意見交換および策定に向けた動きの確認。

◆ 開会

◆ 市長挨拶

皆様おはようございます。

平日のお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

本日は第3回目の策定委員会ということで、来期からスタートする計画に対して皆様からご意見を頂戴したい。

本日の資料にもありますが、各事業には目標数値があります。

「数値目標が達成できないから低く設定する」というようなことが役所の中では多々ある。

そうではなく、本委員会におきましても「目標数値が現状の即しているか」「今後それがふさわしいかどうか」について、このことは各部会でも協議はされていますが、本日も侃々諤々ご協議をいただき、目標の性質自体をより現状に即した形に変えていただきたい。

「現状がどうなのか」「目標数値に近づけるためには何が不足しているのか」等、ちょっと違った角度からそのようなことも見ていただき、協議をいただくことが本日の趣旨の1つではないかと考

えている。

昨年に引き続き、本年も引き続きよろしく願いいたします。

委員のみなさまと行政と一緒に、この産業振興計画を作り上げていけるようにご協力をお願いいたします。

◆ 議 事

(赤池委員長)

皆様おはようございます。本日はよろしく願いします。

香南市産業振興計画は、香南市の地方創生の1丁目1番地である「産業の振興」の部分、具体的には「魅力ある産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業をめざす」という基本目標に対してしっかりと計画をたて、その実施について皆様にご検討いただきながら、しっかりとPDCAを回して検証していくという委員会となります。

前回の策定委員会では、「第1期の総括」を行い、第1期でできたところやできなかったところについて、特に「これからの香南市の産業の担い手をどう確保していくのか」を、「各部会・産業の分野を超えた共通の課題」また、「共通して取り組むべき課題・目標」として皆様と共有をさせていただいた。

本日は来期から取り組む「第2期香南市産業振興計画」について、各部会でこれまで議論もいただきましたので、そのご報告をいただき、分野を超えて、香南市の産業振興計画について協議をいただくということになっています。

限られた時間にはなりますが、第2期香南市産業振興計画をより良いものにしていきたいと思っておりますのでご協力の程よろしく願いします。

それでは、まず事務局より、本日使用する資料のご説明をさせていただいたうえで、各部会の部会長より、本日を迎えるにあたり開催されました部会においてどのような議論が交わされ、その結果どのような数値目標や戦略の柱を設定されたかについてご報告いただきます。

ご報告のあとに、各事務局より、「各分野の事業」について、資料1の13ページ以降の資料や資料2を見ながら各事業のご説明いただき皆様より意見やお考えをいただきたいと思えます。

それでは、ここからは、「資料の見方」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは資料1をご覧ください。

この資料は、前回お示ししたものと大きく変わりはありませんが、変更点につきましてご説明させていただきます。

3ページをご覧ください。

当計画の親計画であります「香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、当計画と同じく、来年

度より第2期が始まります。

去る1月15日には、香南市まち・ひとしごと創生総合戦略の策定委員会が開催され、3ページの左下にあります4つの基本目標が案として示されました。

基本目標の①「魅力ある産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業」が、まさに当計画が担う基本目標なのですが、第2期からは、赤い文字の「稼ぐ産業」という言葉が追記されていますのでご紹介させていただきます。

次に4ページをご覧ください。

前回の策定委員会において、「自然増減がわかる資料が必要ではないか」とご意見がございましたので、新たに「香南市における総人口の推移等」のページを追加しています。

次に22ページをご覧ください。

後ほど各部会の事業説明もありますが、第2期の計画では、「次代を担う香南市の若者、小・中・高校生等に向けた「産業の周知・紹介に向けた事業」等が各部会より出てきたことから、各分野の事業を抜粋し、まとめてご紹介します。以上が前回からの変更点となります。

続きまして、資料2と資料3の説明をさせていただきます。

資料2は、前回の策定委員会でいただいたご意見や先だって開催された各部会からの意見等を基に、各分野がどのような事業に取り組んでいくかについてまとめた資料となっています。

こちらも後ほど各事務局よりご説明をさせていただきますが、各事業の向こう5年の目標値や事業内容が記載しており、この事業が既存の取り組みなのか新規のものなのか等がわかるように示しています。

また、前回の策定委員会では、「実施主体がどこなのか明確にしたほうがわかりやすい」とのご意見もいただいたことから、今回より、実施主体や関連する計画や連携する分野等も記載しています。

資料3は、各部会でどのような議論がされたのかについてまとめた報告書になっています。

後ほど各部会長より部会の報告があると思いますので、あわせてご覧ください。

最後に、参考資料1ですが、こちらは、今後のスケジュールとなります。

簡単ではございますが、資料の説明は以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。それでは、ここからは、「部会のご報告および各部会の事業」についてご報告いただきます。

(農業部会)

それでは、農業部会の説明をさせていただきます。まず、資料1の14ページをお願いします。

部会の方では、なぜ、新規就農者が10人なのかということで議論がされました。

その結果ですが、農業部会の戦略の柱としましては、1番目に、農家の高齢化、担い手不足、労働力不足等、減少している人、担い手確保への取り組み、2番目に、使い勝手の良い圃場にするための道路や水路の基盤整備の取り組み、その担い手確保のソフト面と基盤整備のハード面がバランス良く実施され、はじめて農地が守られるということから、3番目にその農地を守っていくための経

営改善、農地維持への取り組みを掲げ、3本の戦略の柱としました。その中でも、最も重要事項である「担い手の確保」を大きな目標とし、新規就農者10人の確保を目標数値としています。

数値の根拠ですが、まず、年々増え続ける耕作放棄地のうち、再生可能な耕作放棄地の年間増加面積を抽出し、過去7年間の平均を出しました。これが27,443㎡となっています。わかりやすく言いますと約2町7反です。

次に、香南市で推奨している7品目の経営モデル面積の1品目あたりの平均面積を出しました。経営モデル面積というのは、総所得が年間250万円を超えるとされる面積です。

ちなみに、ミカンが6反5畝、ニラが3反5畝、シシトウが4畝と差が激しいですが、平均で2反7畝となります。

再生可能な耕作放棄地の年間増加面積の平均を、経営モデル面積の1品目1人あたりの平均面積で割ることで、何人いれば耕作放棄地の増加面積を補うことができるのかという数値がでます。その結果10人といたしました。

人口は減っている中で、向こう5年間、毎年10人という数字は達成困難かもしれませんが、第1期では希望の数が目標数字で上がっております。

第2期では、現実に見合ったシビアな数字にしてはどうかという意見もございましたが、その後の協議の中でこの数字を数値目標としていくことが決まりました。

続きまして、資料3の1ページからをお願いします。

様々な議論を交わしてまいりましたが、4ページにありますように、協議の中では、香南市独自の農業後継者推進事業は親子で一緒に品目を作る場合でも補助金が出るためありがたいという意見がありました。この事業は市のオリジナルの事業です。本当に手厚い事業です。感謝をしております。

次に、若い農家は農業経験や技術があまりないということで、担い手センターで技術を補っていますが、そのまま、就農開始をするとすると、費用対効果等から非常に難しい状況となっております。ある程度従来の小規模な農家が行っている方式をやったうえで新たな取組や技術を取り入れるべきというお話がありました。

次に有害鳥獣被害対策実施事業の数字は、猟期間外に駆除した数値を目標としているのか、それとも猟期間に駆除した分も含めた数値か。猟期間外の数字を目標としているのであれば、達成は不可能に近いと思われるということで曖昧でしたが、3月に行われる猟友会の総会で猟期間と猟期間外の数字をそれぞれ出してもらい、猟期間外の数値を有害鳥獣被害対策実施事業の目標値とするとしています。

生産基盤の整備・防災への取り組みといたしまして、流出防止装置付燃料タンクは浸水区域ではほとんど整備されているのではないかとのご意見がありまして、これも、当事業は、農家の資金的な負担がどうしてもあるため、事業に着手する者が減っているのではないかとということで、行政の方にも、更なる補助等は検討できないか提案をしたところでございます。

5ページの総評ですが、なるべくKPIのA評価を達成するべく各事業に取り組んでいきたいということで施策も今後さらに協議して、このような場でご報告していきたいと考えています。以上です。

(農林課長)

農業部会の取り組みの内容の説明をさせていただきます。資料2の3ページをご覧ください。

戦略3本柱の1つ目の担い手確保に向けた取り組みとして、1から3-2までが就農を希望する者に対し、技術や経営ノウハウを習得してもらうために整備している施策で、就農希望者の状況に応じて様々な補助制度の取り組みを行っています。

つづいて4ページをお願いします。4と5は就農を開始した新規就農者に対して、経営開始直後の経営の不安定な時期に補助金を交付して育成を図るものです。新規就農者数10人はこの2つの事業の合計値にもつながります。

続いて戦略の柱の2つ目の経営改善・農地維持に向けた取り組みについてです。

1の園芸用ハウス整備事業から3の産地パワーアップ事業については、ハウス整備や、高収益に繋がる機械・施設整備を行い、産地としての経営基盤の拡充を目指すものです。

数値目標は、園芸用ハウス整備事業は1期目の最高値、環境制御技術高度化事業と産地パワーアップ事業は、ある一定整備されてきたことから、数値は下がっていくものと思われませんが、さらに徹底した普及を目指すということで、1期目の平均数値を目標値としています。

次に5ページをお願いします。4の人・農地プランの実質化は令和2年度に香南市内全20地区で実質化を行います。目標数値は、令和3年度からは5地区ずつ行って、4年サイクルで20地区を1巡していき、その後も継続していくように計画しています。5の農産物のブランド化の推進は、加工品の山北みかんジュース、みかんバター、かき氷の販売数を1期目よりさらに増加し、産地の知名度、農業者所得の向上を目指していきます。数値目標は、1期目で最終時の販売数7,380個を基本に、年々の生産増加を目指して設定してあります。6の中山間地域直接支払事業、7の多面的機能直接支払事業については、地域の農地維持や保全活動をさらに活発化していき、よりよい農業環境の維持を目指すものです。数値目標は、取り組む面積の増加としています。

次に6ページをお願いします。8の有害鳥獣被害対策実施事業と9の有害鳥獣被害防止事業は、有害鳥獣から作物を守り、安心した農業経営ができる環境を目指すものです。目標値は1期目で達成できなかった数値と同数です。

続いて、3本目の柱の生産基盤の整備・防災への取り組みについてでございますが、1の耕作条件改善事業は老朽化が進んだ堰、水路等の改修を行い、より農業に従事しやすい環境を作っていくもので、記載してある令和2年度に行う2箇所をはじめとし、順次整備を行っていきます。

2の重油流出防止付き燃料タンク整備事業は、地震身等で転倒した時に燃料が流出しないタンクを整備するもので、津波浸水区域を優先的に実施していきます。一定整備は進んでますが、津波浸水区域以外でも啓発を進めていきたいと考えてます。以上です。

(赤池委員長)

ありがとうございました。それでは次に林業についてお願いいたします。

(林業部会)

それでは林業部会の各取組の数値目標について説明いたします。資料1の15ページと資料3の6ページをご覧ください。

当部会が間伐面積と設定した理由につきましては、間伐することは木材の販売収入による経済効果に加えて、森林の持つ「水源かん養機能」、「土砂崩れ等の災害防止のための減災機能」、「生態系保全機能」等の維持・増進を図るために必要であることから目標といたしました。

次期計画の目標を達成するための「戦略の柱」としては、「森林環境の保全に向けた取り組み」、「啓発・普及への取り組み」の2つを設定しました。

まず、1つ目の柱である「森林環境の保全に向けた取り組み」について、大まかな事業の流れとしては、香南市内での適切な管理がされていない森林に対し、次の3段階で事業を実施していくこととなります。

今年度から森林環境贈与税や新たな森林管理制度というものが始まりましたので、財源と制度の両輪で全国の整備のなされていない森林の事業が始まりましたので、そのようなものを取り入れて、ステップ1として、森林所有者に対し、今後の自身が保有する森林の管理を「自身で管理する」又は「市に管理を委ねる」という意向調査を実施します。

意向調査を実施したすべての山を、境界がわからないと次の作業がわからないので、ステップ2として意向調査を実施した森林の境界明確化の実施し、ステップ3として、保育間伐や搬出間伐による森林整備の実施をします。

ステップ3の保育・搬出間伐については、意向調査の結果、「市に管理を委ねる」と回答があった森林のうち、「経営が成り立つ森林」、つまり、木を切って出してお金になる森林は、森林組合が事業主体となり、「緊急間伐総合支援事業」で保育・搬出間伐を実施します。

一方、「経営が成り立たない森林」については、市が事業主体となり、「森林管理制度間伐委託事業」で間伐を実施し、森林整備を進めていくこととなります。この両方の事業の合算が数値目標となります。

次に2つ目の柱である「啓発・普及への取り組み」については、高知県森と緑の会や林業関係者や地域の有識者と連携を取りながら、図書館等での木育イベントの開催や保育所、幼稚園、小・中学校での森林体験学習等と香南市主催以外の林業・木育関係のイベントの周知を実施していきます。このように、森林整備の実施体制の構築、及び将来の森林所有者及び林業従事者に成り得る子どもたちへの「木育」の強化により、5年間で累計185haの間伐を実施するという目標の達成に繋げていこうと考えております。

(農林課長)

資料2の7ページをご覧ください。

先ほどご説明もありましたが、まず、間伐面積の数値目標といたしましては、香美森林組合と協議し、実現可能な最大事業量を検討した上、5年間で185haの間伐を実施することとしました。

この数値は「緊急間伐総合支援事業」及び「森林管理制度間伐委託事業」における間伐の実施面積となります。

次に各戦略の柱の取り組みについて説明いたします。

まず、1つ目の柱である「森林環境の保全に向けた取り組み」の「意向調査の実施」及び「森林管理制度森林境界明確化委託事業」については、意向調査が年間30ha、森林境界明確化が年間25haと設定いたしました。

これらは「意向調査」を実施した翌年度に同じ場所を「森林境界明確化」といったように連動した事業となっております。そのため、香美森林組合と協議した上で、森林境界明確化を1年間に実施できる最大面積として25haと設定しました。

それに伴い意向調査の面積を30haと設定いたしました。意向調査の時点では面積が正確ではないため、森林境界明確化後の面積変動を見据えて、差を付けております。

意向調査につきましては、年間の目標数値を30haと設定してはいますが、調査文書の発送前の所有者特定等の準備はそれ以上に実施していく予定です。

次に2つ目の柱である「啓発・普及に関する取り組み」については、木育事業を年間11回開催することを目標として設定いたしました。これは、香南市内の各地区の子どもたちが幅広く「木育」を受けることができるように、香南市内の保育園、幼稚園、小・中学校の全22校を2年間で1周させることを目指して設定いたしました。事業の内容としては、「図書館等での木育イベント」、「保・幼・小・中での森林体験学習の実施」、「市主催以外の木育・林業関連のイベントの周知」とし、これらの実施回数を実績といたします。以上で林業部会からの報告を終わります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。続いて水産業部会のご報告をお願いいたします。

(水産業部会)

それでは資料1の7ページ、資料3の13ページをご覧ください。

今回の部会では、第2期に向けての数値目標の設定や、各施策について、委員の皆さんと話し合い、水産業部会としての第2期産業振興計画の取り組みを確認しました。

まず、第1期の数値目標は「沿岸漁業総生産量」を掲げていましたが、直接漁業者の所得向上に繋がる生産額を目標としていくべきとの意見もあり、第2期の数値目標は「沿岸漁業総生産額」としました。

目標値の算出方法につきましては、平成24年度から平成30年度の実績を基に、最大・最小値を除く「シイラ」「イワシシラス」「その他」の3魚種ごとにキロ当たりの平均単価を算出し、この単価を10パーセント向上させたものに、平均水揚げ量をかけて、5年後に305百万と設定しています。10%の向上としましたのは、漁業所得の向上を通じた漁村地域の活性化を目指すための総合的な計画であります「浜の活力再生プラン」において、5年で10%以上の達成を求められることからです。

平成30年度の実績は約358百万円であり、今後の目標値が下回っておりますが、平成30年度は特別に生産額が多かった年であり、水産業特有の好不漁も考慮し平均値をとったためです。

参考に、過去7年間の平均総生産額は約260百万円程度であり、300百万円を超える年は7年で2回程度でした。

この目標達成に向けて、「地産の強化」「流通・販売の強化」「担い手の確保」の3つを戦略の柱とし、取組を進めていくことにより、漁業者の所得向上による魅力ある水産業として、若者が住んで稼げる漁村を目指していきます。

そのために、「地産の強化」として、生産に関する施設整備、また、沿岸漁業設備投資促進事業や

漁船導入事業等による漁業者の生産性向上に向けた取組への支援を実施し、効率的な生産体制の構築による漁業生産の維持へと繋げていきます。

2つ目の「流通・販売の強化」として、他分野との連携による市内水産物のPR体制づくり、また情報を地域から発信することにより、地域をあげての取組を行うことで、香南市ブランドの確立による認知度向上を進め、魚価の向上に繋げていきます。

3つ目の「担い手の確保」については、(一社)高知県漁業就業支援センターと連携し、次世代を担う後継者を確保し、今後も持続可能な水産業を目指します。

最後に、本年度、内水面関係者へ話をお聞きしにお伺いした際に、河川環境の保全の重要性についてご意見をいただきました。

海面・内水面を含む全ての水産物は、森・川・海の繋がりによる恩恵を受けていることも踏まえ、物部川の環境活動等へ参加することにより、地域環境の保全も図っていきたくと考えております。なお、部会開催時に出た意見としまして、特に「担い手の確保」についての意見が多く、「長期的な展望をしたとき、このまま何もしなければ、漁業は自然消滅する。」「いくら産業振興計画で色々な取り組みを実施しても、担い手が確保できないと意味がない。」「すぐに解決できる問題ではないが、漁協が中心となり関係者で検討会を立ち上げ、意見をだしあう場があってもいいのではないか。」という意見があり、関係者が共通の認識を持つことが大事であるということが改めて確認できました。

また、就業希望者を受け入れるには、漁業者に理解・協力をいただくことが大事であり、1回受け入れたらスムーズに行くこともある。そのためには漁業者の皆さんに現在の水産業の状況をわかっていただき、受け入れる空気をつくっていく等、就業希望者を地元が受け入れ、応援する体制をつくる必要があるといったように、今後も持続可能な水産業を目指すためには、将来を担う漁業者の必要性を、漁業関係者が共通の認識を持ち、確保に向けた取組を考え、また、地域で受け入れ、応援していくといった受入れ側の構築が必要であるとの結論に至りました。

以上の意見を踏まえ、漁業に魅力がないと後継者はなかなか現れないので、水産物の認知度向上による所得の向上も併せて進めていくことが必要であると感じました。簡単ですが、以上で水産業部会のご報告を終わらせていただきます。

(商工水産課長)

それでは、水産業分野についてご説明いたします。資料2の9ページをお願いします。

まず、1つ目の戦略の柱である、「地産の強化」の取り組みですが、◆漁業者の生産性向上の中の継続事業にはなりますが「沿岸漁業設備投資促進事業」については、漁業者の生産性の向上に向けた設備投資、いわゆるエンジン等機器取得・漁船リース等になりますが、この取り組みを実施することにより、効率的な生産体制を維持することを目指していきます。

その中で、漁業者が借り入れる資金に対する市の利子補給制度がないため、令和2年度に利子補給制度の策定を行い、設備投資に対する支援をしていくこととしています。

次に10ページをお願いします。2つ目の戦略の柱である、「流通・販売の強化」の取り組みで、◆市内水産物の認知度向上、ブランド化の中の継続事業にはなりますが「市内水産物の魚価向上」については、魅力ある水産業として、若者が住んで稼げる漁村を目指していくためには、付加価値を

付け高く売っていくことが重要であります。そのために、他事業者との連携による新商品の開発、地元飲食店での地元水産物の利活用を促進することにより、地域を巻き込んでPRしていく体制づくりを目指していきます。このことにより、香南市ブランドの構築による認知度向上を進め、外商へ拡大、需要を増加させ、生産額を伸ばしていきたいと考えています。

次に、11ページをお願いします。3つ目の戦略の柱である、「担い手の確保」の取り組みで、◆

「(一社)高知県漁業就業センターとの連携による担い手の確保の継続事業になりますが、「担い手の確保事業」については、現在、市において漁業就業希望者に対する情報発信を行っていない状況であり、(一社)高知県漁業就業支援センターHPへの掲載及び県外フェアへの参加を行い、香南市で漁業就業し生活を行う「生活プラン」の策定をしていきます。

また、漁業関係者の親族等で就業希望の方がいる場合は、就業支援で「漁家子弟支援事業」がありますが、この支援制度を知らない方も多く存在するため、地元漁業者への支援制度説明会を開催し、各種制度の周知・理解、担い手の掘り起こしを図っていきます。

こうした事から、今後も持続可能な水産業を目指し、次世代を担う後継者の確保を目指し、水産業の振興に一層取り組んでいきたいと考えています。水産業は以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。ここからは、農林水産業について意見交換を行いたいと思います。

各事業の質問であったり、分野をまたいだ連携であったり、ご質問やご感想をお願いいたします。水産業部会では、基本目標については、量から金額に変えていくというところですが、産業振興計画の「稼ぐ」ということを意識し、部会で検討いただいた項目だと思われます。

今回、「量から額」へ変えたときに、事業としては継続事業が多いが、たくさん稼ぐ方向に転化した中で、政策の重点ポイントが変わることはあるのでしょうか。

(委員4)

継続事業が多いのは確かですが、やはり、金額に変えた最大の理由は「担い手確保」です。

魅力ある、稼ぐ漁業を作り上げていかないと担い手確保が難しい現状です。

現状として、例えば、新規で行う方がいたとしても、サラリーマンを勤め上げ、定年後、地元に戻ってきた方が趣味の釣りも兼ねて行うというのがポツポツ居るが、それ以外は居ません。

漁業は風が強い場合や悪天候で漁に出られないというのが漁業であって、目標値に金額を設定した要因はそこにあります。自然相手の商売であり、漁に対する意欲があっても漁に出られないこともあります。

昨年の赤岡で漁を行っている方で多い方でも年に200日程度しか出られていない。

「休みもあって良い」という見方もあるだろうが「稼ぐ」部分では正直つらい部分です。

投資が大きい仕事であるので、日銭といえますか、やはり漁に出て稼ぎたいというのが本音な部分です。

1つ考えていることは、生産者、漁師さんの確保の中で、これまでは、独立型の支援が多かったが、これからは雇用型へシフトするべきではないかという意見も出てきた。このような経緯から、人が減っていくことから、生産量も落ちることが見込まれるが、それでも生活基盤を守る意味と新

規就労者の確保に向けた「生産額」を数値目標といたしました。

(赤池委員長)

ありがとうございました。水産業の現状について非常によくわかりました。

担い手というのは共通した課題です。水産業は自然環境が相手でもあり、仕事に出る機会も左右される。量から額へ変えたことは、担い手に対して「いくら稼げるのか」を示す目的もある。

雇用形態も独立型から雇成型へというお話がありましたが、市内外からの新規就業者が「漁業はどういう所得の状況なのか」を知る機会の創出を来年度から、一般社団法人と連携して行うということがそこに結びつく。しっかりとどういう形で連携し、どういうニーズがあるのかを把握すべきだと思います。

その他、何かご意見はございませんでしょうか。

(委員 13)

農業の中で、観光農業なんかも将来的に行っていただくことはできないか。

今回の計画ではその辺が掲載されていないように見受けられる。

(委員 2)

品目により可能かどうかもあるが、実際にニラ部会が消費者を呼んでニラの収穫をして食するようなものを行っている。しかし、受け入れの問題があり、広く周知は行っていない。

観光分野の取り組みに対するご要望だと思うので、一回持ち帰り、様々な場所でご相談をしていきたい。

(委員 12)

海外から「農業体験」を行いたいという要望が多くあります。

隣の市であればパプリカをメニューに行った経緯もあるが、ニラについても収穫体験の話が来ているところである。相談をさせていただき、実行に移していきたいと考えているので、よろしくお願いいたします。

(委員 2)

生産者の中でもHPを立ち上げて色々な取組を行っている者もいる。是非そのあたりも調べていただきたい。

先ほどから「ニラ」と言いますが、ニラは臭いが強いので、靴は注意しないとあとあと大変になる等の問題もある。実行時は気を付けて行うべきです。

今回、このように観光のお話をいただくことは、農業部会としてもありがたい。

色々なことにつなげていければと思うが、香南市はニラやみかんの品目がメインになると思われる。また、最近では農福連携ということで、福祉関係との体験メニューも増えてきている。

しかし、個人農家の受入は対応の部分を含めて難しいとの話もあるので、そうなる対象者は大きく、手広くやられている方が対象になると考えられる。是非、そういった部分も加味しながら事業

をお願いしたい。

(委員 12)

農業分野と観光分野の連携でもう1つ確認したい。

この連携において、観光を使っていただく方の最終的な目的が、こちらの目的と違う場合があるのとこれまでの取り組みで感じている。

今年度は香南市の某民間企業と連携し、モニターツアーを開催している。この取り組みはあくまでも、「就農」というところを目的としているが、観光のメニューということではなく、「就農ができるような教育の部分の要素」を多く盛り込んだメニューになっている。

以前、ニラを「観光」という目線で取り組んだことがあるが、最終的な目的といいますか、着地点という部分が違ってくると、受け入れというのはできないということになる場合がある。

委員 13 がおっしゃった「観光農園」のお考えにするのか、「就農」、強いては「移住」の観点で取り組むかによって方向性も変わると思うので、本日のような会でも伺い、確認をしていきたいと考えている。また、違った部分があればご指導をいただきたい。

(委員 2)

個人的には、このような取組において、生産者の多くは、食の安心安全を消費者といかに分かち合えるかが最終的な目的だと感じている。就農等に繋がればなおよいことだと思いますが、主は少し違うかもしれない。

しかし、今後進めるにおいては、そこも協議させていただき、すり合わせて行くことが重要だと感じますのでよろしくお願いいたします。

(赤池委員長)

ありがとうございました。他分野の連携というのは、産業振興計画の中でも重点的にやっていくところ。求められているところです。

ただし、最終の目的が違うといいますか、それぞれの思いがバラバラで行われるのではなく、本日のような会で共有させていただき、進めて行きたい。

合同部会というものもあるので、このような会でより具体的にご議論いただくことも良いと思いますのでよろしくお願いいたします。

さて、農業・林業・水産業というところでは、産業振興という部分以外でも繋がっている部分があると思います。

水産業の方から、環境の保全についてのお話もありました。

子どもたちや市民向けの啓発普及活動ということで、産業振興の「稼ぐ」というよりは「その生産基盤となる環境を守る」ということでしたが、個人的には、バラバラで取り組むより一緒に何か行っていけるのではないかと感じています。その点についてはどう感じますでしょうか。

(委員 3)

水産業分野からお話の中で環境のお話の部分は非常に衝撃がありました。林業の方としても「森は

海の恋人」という部分がありますので、是非水産業の関係者にも林業の現状を学んでいただき、一緒に協力していける部分があれば、行っていきたい。

また、委員4から水産業の就業に関してお話もありまして、林業の場合も雨が降れば山に入れない等の問題もありますので日数が限られている部分がある。しかし、雇用形態のお話でいきますと、林業はほとんどが雇成型です。香南市ですと、香美森林組合が現場の方を雇用して事業を進めることが多く、香美森林組合では、香美、南国、香南市より約60名を雇用しているが、なかなか60名でも作業を進められない状況。ただし、雇用をしているので、現場の方が安定して仕事は行えている。

雨の日でも機械の整備をしたり、林道の草刈りを委託事業として請け負ったりと、山の仕事以外儲けることができる環境はある。

昔から林業というのは農業とも密接に関連をしていて、雨の日は田を耕し、収穫時期は畑で、収穫期が終われば、冬ですと山に入り整備や木の搬出を行う等のサイクルがあった。

しかし、なかなか水産業とはこれまで結びつくことがなかったので、その点はまた考え、できることがあれば何か連携を進めて行きたい。

(委員4)

高知県の昔の漁業というのは「半農半漁」だった。農業がメインで、その間に漁に出るような生活だったが、そこから独立して今があるような流れである。現在の補助とといいますか、動きの大半は、独立型に特化している。

2年たったら一本立ちしてくださいねというような制度が主であり、それではなかなか続かないという現実がある。

例えば、林業と水産魚、水産業と農業というような兼業というのがこれからの可能性かもしれません。それにより就労日数や所得向上につながるかもしれないと感じました。

(赤池委員長)

ありがとうございました。

農林水とお話を伺ってきた中で、「担い手」という問題が多くありました。

このことについては、前回の策定員会でもありましたし、これまでも香南市の課題であるということで認識してきたところだと思います。

ご発言いただいた内容として、雇用日数や安定した所得という部分は、雇用する側としての視点だと思うのですが、担い手側という部分で、外から、または市内でなり手を検討している方に、まだまだ情報を発信しきれていない部分はあると思います。

本来であれば、農林水の各産業従事者を獲得していくことが望ましいと思いますが、具体的な取組につなげていくためのきっかけとして、どういう形で生活できるか、また、魅力があるのかを前回の合同部会で行った「魅力の発信」を行うとともに、稼ぐ農林水産業であって、働く方にとってどういう選択肢があるのかをしっかりと定義する必要があります。

是非、第2期の期間内で、3分野の担い手に対する部分等についてコラボできる環境づくりや、課題の解決に向けて取り組めればと感じているところです。

その他にございますでしょうか。

それでは、次に、商業、工業の分野についてご説明をお願いします。

(商業部会)

それでは、商業部会のご報告をさせていただきます。資料1の17ページと資料3の18ページをご覧ください。

今回の第3回商業部会では、第2期に向けて数値目標の設定等についての取り組みを確認いたしました。

第1期では、商工業分野共通の数値目標のみでありましたが、第2期では、商業分野独自の数値目標の設定を行うようにしております。数値目標としましては、「商業者数」及び「事務系企業数」の2つを設定しております。

まず、1つ目の商業者数につきましては、香南市商工会が保有する商工業者数のうち、商業分野の総数を商業者数としております。香南市では、過去3ヶ年平均で5事業所が創業しており、一方で、過去3ヶ年平均の推定で8事業所が廃業しております。

第2期の取り組みを踏まえて、少しでも商業者が増加するように空き店舗を活用した創業や、事業承継に向けた取り組み等を行い、令和2年度の813事業所から微増ではありますが、維持・増加を図り、令和6年度の最終目標値である、817事業所を目指すこととしております。

続きまして2つ目の事務系企業数につきましては、これまで工業分野の施策として取り組んでおりましたが、空き店舗等を活用し取り組みを行っていくことから、第2期からは商業分野の施策として取り組みます。

地方進出に興味のある首都圏企業への訪問や情報提供等を行い、最終目標値である延べ10企業を目指します。

この2つの数値目標を達成するために「空き店舗活用に向けた取り組み」、「担い手確保に向けた取り組み」、「商業支援」の3つの戦略を柱としています。

「空き店舗活用に向けた取り組み」については、市内にどの程度の空き店舗があり、こういった形態が多いのかという実態調査や空き店舗を活用した創業を支援していきます。

「担い手確保に向けた取り組み」では、既存事業者への事業承継に関するヒアリングや支援機関の紹介、未来人材育成奨学金返還助成事業等を実施し、市内事業者の担い手確保に向けた取り組みを進めます。「商業支援」では、香南カーニバルの開催や地場産品販売促進事業等により既存事業者のPRや売上増を図っていきます。

資料3の21ページをご覧ください。前回の部会でいただいた意見としましては、空き店舗については、不動産屋が持っている物件が少ないので、民家のようなところを店舗として活用できるような取り組みを行ってもいいのではないかと。また、事務系企業の誘致は、空き店舗を活用し進出してもらえ、長期間の契約が見込めるため不動産屋も期待しているのではないかと等の意見がございました。事業承継については、ある企業で、10年かけて従業員が少しずつ資金をため、その会社を会社の株を買収し、社長となったというような取組事例もあるということで、息の長い取組になるがそのような取組を進めていくことも視野に入れるべきとの意見がありました。

今後、空き店舗対策事業の実施により空き店舗数が減少し、地域商業のにぎわいをつくりだし、市

民の多様なニーズに応えられるとともに、創業支援や事業承継の推進等を行うことで、地域商業が維持、活性化している香南市を目指すべく、取り組んでいきます。商業部会からの報告は以上です。

(商工水産課)

次に、商業分野を説明いたします。資料2の12ページをお願いします。

まず、1つ目の戦略の柱である、「空き店舗活用に向けた取り組み」で、空き店舗対策の中の新規事業として「商店街等振興計画の策定」ですが、これまで中心市街地活性化に向けた具体的な取り組みがありませんでしたので、この計画を作る事により中長期的に誰がどうやって活性化に向けた取り組みを行っていくか等を明確にし、中心市街地の活性化を図っていきたくと考えています。

次の新規事業として「空き店舗実態調査」では、年々空き店舗が増加傾向にあると思われませんが、その全体像が把握できていないため、市内全域の空き店舗数や形態等を把握する調査を行います。また、空き店舗の調査だけでなく、14ページの「事業承継の推進」や、15ページの「人材ニーズの掘り起こし及び発信」と絡め、既存事業者に対して後継者がいるか、またハローワークには出していないがこういう仕事があり、こんな人材がほしいといった情報を、ヒアリング調査等により把握していきます。

次の新規事業として「空き店舗バンクの実施」については、空き店舗実態調査の結果も踏まえて、市内の空き店舗情報を一元化し、情報発信することで空き店舗を活用した創業を促進していきたくと考えています。

次に13ページをお願いします。次は継続事業になりますが「空き店舗等を活用した事務系企業の誘致」については、イシン(株)と連携し、地方への進出を検討している首都圏企業に対して、企業訪問等を行い補助制度や物件情報を提供し、今後も誘致を図っていきます。なお、昨年12月にUTキャリアさんが本誌で業務を開始されました。雇用についても、5人中2人が香南市内の方であり、現在もテレフォンオペレーターを募集中されています。

次に、2つ目の戦略の柱である、「担い手の確保に向けた取り組み」で、担い手の確保・育成の中の拡大事業として、「未来人材育成奨学金返還助成事業」については、活用件数が0となっておりますので、これまでの対象者は、新卒者のみでしたが、40歳未満の新規就業者を対象とし、中途採用者でも活用できるように見直しを行うように考えています。

また、あわせて、城山高校や県内大学、専門学校、企業に対して情報周知を図り、利用の促進を図っていきます。

以上の様な取り組みにより、商業の振興により一層取り組んで行きたいと考えています。商業は以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。続きまして工業分野からお願いいたします。

(工業部会)

続きまして工業分野のご説明をさせていただきます。資料1の18ページと資料3の22ページをご

覧ください。1月に開催されました第3回工業部会により、第2期に向けての数値目標の設定や、各施策についての取り組みを確認いたしました。

第2期工業分野の数値目標といたしましては、製造品出荷額と新たに新規雇用者数を目標値として加え、拡大再生産による雇用の拡大と地域の賑わい創出を図ることといたしました。

製造品出荷額の数値目標につきましては、令和2年度の320億円から段階的に増加を図り、令和6年度の最終目標値である、5ヶ年で1,800億円を目指すこととしました。

各年度の目標値は令和元年度策定時の基準値である397億円及び第1期の各年度目標値であった500億円を下回っておりますが、これは、平成30年5月に閉鎖いたしましたルネサス高知工場の製造品出荷額が約100億円であったことから、こちらを考慮し、令和2年度以降の既存企業及び新規立地予定企業の事業計画と、企業誘致支援制度の見直しにより、増加が見込まれる製造品出荷額を算出したものです。

第1期の取り組み以降、香南工業団地の完売や、川谷刈谷地区への企業立地等により、企業誘致を行うための工場用地が不足しております。

第2期からの取組では、新たな工業団地を整備することで、製造品出荷額の増加を目指すとともに、経済の活性化を図り、加えて、現行の企業支援制度の見直しを行うことで企業の設備投資に伴う負担を軽減し、雇用の創出、生産性の向上、税収の確保へと繋げてまいります。

また、新たな数値目標である新規雇用者につきましては、既存企業及び新規立地予定企業の事業計画による予定雇用者の半数以上を地元雇用とし、地元雇用者の70%を見込んだ63人を最終目標値といたしました。

雇用における目標を明確化することで、第2期では更なる雇用の促進に取り組むとともに、地域経済の真の発展のために大企業が生み出す経済効果に頼るだけでなく、中小企業の力が様々な分野で発揮され、市内取引や市内消費の拡大による循環によって市内産業が活性化することが不可欠であることから、引き続き既存企業の育成支援を重要施策として位置づけ、事業内容の充実を図り、「ものづくり企業が輝き躍動する香南市」を目指します。

第2回の工業部会では、新たな数値目標である新規雇用者数の63人について、「現状の雇用情勢を十分考慮し、下方修正してはどうか」との意見もありましたが、戦略の柱である「企業誘致の促進」と、「既存企業の育成・支援」の各事業を行うことで、製造品出荷額の向上と新規雇用者の確保に向けて取り組むこととし、目標数値の下方修正は行わないことといたしました。

また、資料3の25ページをご覧ください。工業部会での各施策に対する主な意見といたしましては、次の5点があげられました。

新規工業団地の候補地選定においては、物流を考慮した場所、排水や公害防止、工業用水の活用も含めて検討し、県外等の工業団地に負けないような立地条件を見出すこと。

香南市企業誘致条例の改正については、県の補助金対象外となる小規模な企業立地においても対象となるよう見直しを行うこと。

商談会開催事業については、外商のPR向上に向けて高知県産業振興センターと連携し、企業訪問や懇談会等で周知を行い、商談会への参加を促すこと。

香南市未来人材育成奨学金返還助成事業については、人材センター等の関係機関とも連携を行い、移住希望者にも事業周知が出来るような取り組みを行うこと。

ものづくり教育推進事業については、他分野との連携も含めて学校に周知し、利用促進を図ること。

これらの意見を各施策に反映し、第2期の工業分野の取り組みは、ものづくりの基盤整備強化と、中小企業の技術向上・経営革新の支援により、企業誘致の促進や市内企業を元気にする取り組みに重点をおいて、数値目標の達成を目指します。以上で工業部会の報告を終わります。

(商工水産課長)

次に、工業分野を説明いたします。資料2の16ページをお願いします。

まず、1つ目の戦略の柱である、「企業誘致の促進」では、ものづくりの基盤整備の中の新規事業として「新規工業団地整備事業」を行います。香南工業団地の完売等により、企業誘致を行うための工場用地が不足しております。新たな工業団地を整備することで製造品出荷額と新規雇用者の増加を目指すともに、企業誘致による経済の活性化を促進していきたいと考えております。

令和2年度には候補地の選定と適地調査を実施し、令和6年度の方譲開始を目指します。

次に継続事業ではありますが「川谷刈谷地区工場用地（旧ルネサス東駐車場用地）の方譲ですが、昨年12月に用地を取得し、現在、全体の確定測量を行っているところです。

今年度中には方譲要領を作成し、令和2年度からの公募開始に向けて早期方譲となるよう取り組みを進めてまいります。

次に、企業誘致支援制度の見直しの中の拡大事業として「香南市企業誘致条例の改正」ですが、現行の支援制度では、小規模な企業立地等は県の補助金対象外となるケースもあることから、大規模から小規模の立地企業の設備投資に伴う負担を軽減し、雇用の促進と生産性の向上に繋がる支援制度の見直しを行ってまいります。

次に17ページをお願いします。2つ目の戦略の柱である、「既存企業の育成・支援」では、中小企業の技術向上&経営革新の支援の中の、「香南市未来人材育成奨学金返還助成事業」を商業でもご説明しましたが拡充することといたしました。この事業は商業分野でもお話をさせていただきましたが、平成27年度より事業を開始し、平成31年度より対象業種を拡大する等、利用の促進を図ってまいりましたが、現在も利用がないところです。令和2年度からは要件の見直しを行い、新卒者のみでなく40歳未満の新規就業者を対象とし、中途採用者も対象とすることで更なる利用促進を図るとともに、人材センター等の関係機関とも連携を行い、移住希望者にも事業周知が出来るような取り組みを進めてまいります。

次に18ページをお願いします。新規事業として「ものづくり教育推進事業」を行います。

近年、若者が仕事を求め、市外や県外への流出が相次いでおり、人口減が続く香南市においても若者の市外転出は喫緊の課題となっております。そこで、次代を担う小・中学生や高校生に、工場見学やものづくり体験学習等を実施し、ものづくり教育を推進することで地元の企業を身近に感じ、将来の就職の選択肢として捉えてもらう若者の地元定住に繋がる取り組みを新たに進めてまいります。

第2期の工業分野につきましては、以上の事業に重点を置きながら、数値目標の達成に向けてより一層取り組んでいきたいと考えています。工業は以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。

商業分野では新規事業は4件、工業分野は新規事業3件、拡充が2件ということで、第2期には新たな取組を行っていくとお見受けいたします。

私から1件お伺いしたのですが、第2回の策定委員会では、高知県は平成16年度から事務系誘致に本格的に取り組み、14年間で16社・18事業所ということをお伺っていたが、今回の商業分野の新規事務系企業数というのは、「空き店舗を活用し、新規に起業される企業」を指しているのでしょうか。例えば、加工する等の企業はカウントされるのでしょうか。また、空き店舗を活用したサービス業等も含まれるのでしょうか。

(商工水産課長)

香南市の空き店舗を活用し、香南市の方を雇用していただけることを前提とした企業様で、できれば首都圏からの事務系企業誘致を図りたいと考えています。

(赤池委員長)

その他にいかがでしょうか。商工業というところであればお願いいたします。

(委員10)

先ほどもご紹介がありましたが、UTキャリア様が昨年11月末に進出され、すぐに3名の雇用、現在は5名ということで、我々も素晴らしい結果ということで、UTキャリアさんからも満足いただいています。拠点を開設された企業様にあっても素晴らしい滑り出しになったなと感じています。令和2年度の取り組みにあたって、前回も申し上げましたが、実際に進出された企業様がうまく進むのかという実績の部分が今後の誘致の1つのキーポイントになるという意味では、今回の採用の実績は非常に良かったと感じています。来週、香南市様と東京の成長企業様の訪問が予定されており、そのことを添えながら市の方々にご訪問できたらと考えています。

また、2月中旬にベンチャー企業の代表者様等を、4社ほど香南市にお連れし、ツアーという形でご訪問させていただきます。その際には、UTキャリアさんにもご参加いただき、進出前後のリアリティある事例をご紹介いただき、より誘致に繋げていきたいと考えています。

(赤池委員長)

ありがとうございました。ここで少し、私の方からですが、私は大学に所属しており、学生を送り出す立場におるのですが、今回、商業、工業分野の担い手像というのが、1次産業とは違った像だと感じています。それを踏まえて、新規事務系企業の誘致ですとか、新たな工業団地の整備や企業誘致を行うということは、香南市で働くことについてのバラエティがすごく増えるということのかなと感じています。

産業振興計画における目指す将来像の1つである「次世代を担う若者が香南市で誇りと希望を持って安心して暮らせる」また、「働ける」というのは、若者にとって香南市は「魅力ある街」になると思います。

奨学金の取り組みも、当大学の学生がどれくらい知っているのかわからない部分ではありますが、是非内容もお調べさせていただき、周知をさせていただくことで、かなりの反響があるのではないかと感じているところです。送り出す高校、大学と連携し、私もできる限り周知も行いたいと思います。

その他にございますでしょうか。なければ観光、サイクリング、住宅へと移りたいと思います。それでは観光につきましてよろしく願いいたします。

(観光部会)

第2期香南市産業振興計画推進観光分野についてご報告させていただきます。資料1の19ページと資料3の26ページをご覧ください。

はじめに、目標設定についてご説明いたします。前回の策定委員会では、第1期香南市産業振興計画の数値目標である「観光施設入込客数」を踏襲し、令和2年から令和6年までの目標を120万人としておりましたが、実績と乖離があることについて意見があったことを受けまして、段階的に目標値を上げていくこととしました。過去3年間で最も入込客の多かった平成29年の107万人を令和2年の目標値に据え、令和6年には121万人を目指します。こちらは、年間3%の成長率と設定しています。

戦略の柱ですが、第1期までの柱としていた「核となる観光拠点の形成」「広域観光の推進」「人材の育成」「国際観光の推進」の4つの戦略の柱からなる施策を改めて、香南市を知ってもらうための「香南市観光の発信」、知ってもらって観光客の方に実際に香南市へ行きたいと思わせるための観光拠点の整備や観光資源の磨き上げやコンテンツを充実させる「観光の育成に向けた取り組み」、お越しいただいた方を受け入れ、満足して帰ってもらうことで、また香南市に来たい、他の人にも伝えたいと思わせるための「受入体制の強化」の3本の戦略の柱を設定し、これにより香南市の認知度向上やリピーターの創出に取り組み、観光客の増加とそれに伴う消費の拡大に繋げていくことを確認しました。

委員からは観光の向かうべき方向性が不明瞭であることに加え、方向性を定めるための基礎資料の乏しさについて指摘がありました。これを受け、令和2年にアンケート調査を実施し、観光消費額単価にくわえ香南市を訪れる観光客の属性や動向を調査することとしました。調査により得られたデータをもとに「ターゲット及び方向性の明確化」を行い、香南市の観光を効果的に推進してまいります。

(商工水産課長)

それでは、資料2の19ページをお願いします。

まず、1つ目の戦略の柱である、「香南市観光の発信」として、情報発信手段の効果的な活用の中の、拡大や継続事業になりますが「香南市のPR活動の強化」から「SNSを活用した情報発信」までの取り組みでは、SNSやHPを活用した情報発信を行い、アクセス数等を分析することによりニーズに即した訴求力の高い情報を提供し、香南市の認知度向上に繋がります。

次に20ページをお願いします。2つ目の戦略の柱である、「観光の育成に向けた取り組み」として、核となる観光拠点の形成の中の拡大事業として「三宝山エリア活性化促進プロジェクト〔地域

と連携した高知県産ワインのブランド化促進事業]」では、民間企業様の取り組みになりますが、ブドウ栽培からワインの醸造・販売までの一貫した体制の構築に向け、ブドウの栽培面積の拡大や醸造施設の建設、人材の育成等に取り組みます。また、県内各地の耕作放棄地でのブドウ栽培の実現と、高知県の食材とのコラボレーションやPR活動を行い、県内産ワインとしてのブランドを確立し、これまで県内になかった「ワイン文化」を醸成し、土佐ワインバレー構想の実現を目指します。なお、R4度以降の目標値につきましては、県の地域アクションプランとの調整を必要としていることから、来月開催されます、県の物部川地域アクションプランフォローアップ会議で示される資料等との整合性を図ります

次に21ページをお願いします。スポーツツーリズムの推進の中の拡大事業として「サイクルイベントの開催」では、サイクルイベントを開催するとともに「香南市=高知県東部のサイクリング中心地」として認知してもらうよう市外（県外）に向けてPRを行います。観光サイクリストを増加させることで、観光客増・収益増につなげることを目的としています。

次に新規事業として「マリンスポーツの推進」では、香南市マリンスポーツ施設やヤ・シィパークを活用した大会を開催するとともに、来訪者が手軽にマリンスポーツを満喫できるようマリン体験を実施し、マリンスポーツの推進を図ってまいります。

3つ目の戦略の柱である、「受入体制の強化」として、おもてなしの向上の中の「香南市案内人会の拡充」と「外国人観光客受入研修」に継続的に取り組むほか、新規事業として「観光地点パラメータ調査」を実施いたします。これは、市内観光地を訪れた観光客を対象としたアンケートを行い、観光消費額の推計に利用するほか、観光客のニーズや動向の把握の基礎資料として利用し、「ターゲット及び方向性の明確化」を行い、本市の観光振興に繋げていきたいと考えています。

なお、こちらについては、来年度DMOさんも実施されると伺っておりますので、一緒に連携を図って進めて行ければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。観光は以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。次にサイクリング分野についてお願いいたします。

(サイクリング分野)

第2期香南市産業振興計画推進サイクリング分野についてご報告させていただきます。

資料1の20ページ、資料3の31ページをご覧ください。第2期に向けての数値目標の設定や、各施策について、昨年末の第4回サイクリング専門委員会で委員の皆さんと話し合い、資料を基に、サイクリング専門委員会としての第2期産業振興計画の取り組みとして専門委員会へ持ち上がっていいかを確認しました。

前回の策定委員会でもご説明させていただきましたが、第2期では市がサイクリングで目指す「観光と健康」に絞った事業展開を中心に、それぞれに必要なハード整備を加え、「対外的な観光・市民向けの健康・環境整備」3つの柱を主軸に取り組んでいくこととしています。

数値目標としては、「サイクルイベント・大会参加者数」を5年間での累計4,150人目指すことと「自転車利用促進に参画し、活動する『サイクルサポーター』数を5年間での累計30団体獲得するという2つを設定し、市民参加による自転車を活用したサイクリストの受け入れ体制づくりをも

ってスポーツツーリズムやイベント・大会の開催に伴う宿泊施設や飲食店等の市内事業者の収益増につなげていくよう取り組んでいきます。専門委員会では、サイクリングの取り組み全体に係る大きな意見として、「すぐにではないが観光の KPI が人数でいいのかを検討する必要がある。人数を増やすのは参加料を安くすればクリアできる。例えばイベントや大会等で周辺の施設の収益増を目指すのであれば、参加人数が少なくても出店者等に収益が出る「売上高」を将来的には目標数値にすることがいい。」等をいただきました。これを受け、専門委員会では、今後、売上高の算出方法を考え数値目標の変更を検討していきます。専門委員会、幹事会を経て、本日皆様のお手元にある資料に記載している内容をもって、サイクリング専門委員会としての数値目標と取り組みとして提出させていただきますのでよろしくお願いいたします。以上です。

(商工水産課長)

サイクリングについて説明いたします。資料 2 の 23 ページをご覧ください。

KPI に記載している取り組みについては、令和 2 年度に策定する「香南市自転車活用推進計画」により、取り組みの詳細を定めていくものがありますので、現時点での想定で記載させていただいていますが、推進計画策定後に具体的な数値・内容に修正したいと考えています。

まず、1 つ目の戦略の柱である、「観光」のうち、サイクルツーリズムの推進の中の新規事業として「3-1 イベント・大会の開催（三宝山ヒルクライム）」については、三宝山の傾斜を活用したヒルクライムの大会を来年明けに実施するよう調整しています。大会でサイクリストを招くだけでなく、周辺を活用したコスプレイベントやマルシェ等を組み込み、一般客も楽しみながら自転車に興味を持ってもらう香南市ならではのイベントとして確立し、出店者・飲食店・宿泊施設の収益増につなげていきます。

次に 24 ページをお願いします。新規事業として「3-5 イベント・大会の開催（3 市ロングライド）」では、香南市内だけでは開催が難しいロングライド、こちらは距離 130km を想定しておりますが、南国市・香美市と連携し、物部川河川敷の自歩道を活用し開催し、物部川流域を代表するサイクルイベントとするよう企画します。このイベントでも、観光分野のスポーツツーリズムに寄与すると共に飲食店・宿泊施設の収益増につなげていきます。イベント自体は令和 3 年の秋を想定しており、2 年度中に各方面と調整し開催に向けて取り組んでいきます。

次に 26 ページをお願いします。2 つ目の戦略の柱である、「健康づくり」のうち、観光サイクリストの受け入れ体制づくりの中の新規事業として「サイクルサポーター制度」では、サイクルサポーター制度を構築し、登録してもらうことで、イベント開催時等にもスタッフや出店者として参加してもらうよう自転車活用推進計画で制度を作り、活動を開始するようしていきます。

次の新規事業として「思いやりサポート事業」では、自動車利用者とサイクリストが共存し、安全に道路を通行するため、お互い安全な環境を構築するための自動車に貼り付ける「自転車追い越し思いやりステッカー」、こちらはマグネット式を予定しています。それを作成し、配布して活動を普及していきますが、まずは市の公用車で実施したいと考えています。

次に 27 ページをお願いします。3 つ目の戦略の柱である「環境整備」のうち、サイクリストにやさしい観光の充実の中の新規事業として「サイクルラック導入事業」では、サイクルラック設置により、サイクリストと店舗・事業所が相互に気持ちよく、気軽に立ち寄ってもらえるようにすると共

に、市民の皆様にも、自転車を利用しやすい日常を提供し、市全体で『自転車にやさしいまち』として確立できるようにします。具体的には、自転車活用推進計画において定めますが、市施設を始め観光施設や宿泊施設・飲食店等へ市がラックを購入し、無償貸与する手法を考えています。

次は継続事業になりますが「サイクリングターミナルの利活用、再整備」については、県内他市町村にはないサイクリングターミナルの特色を生かし、宿泊・座学・自転車利用ができる施設としてこれまで以上に利用してもらうため、自転車活用推進計画において利活用の再検討と再整備を考えていきます。

以上の様な取組により、サイクリングの普及促進をより一層進めて行きたいと考えています。

長くなりましたが、商工水産課からの説明は以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。次に住宅分野についてお願いいたします。

(建設課長)

住宅分野についてご説明いたします。これまでの取り組みは、リフォーム事業は建設課、市営住宅関係は住宅管財課、耐震関係は防災対策課、空き家関係は地域支援課と4課にまたがって取り組みを進めてまいりました。それぞれバラバラな取組であったことから、担当課が集まり、今後について協議を行った結果、今後は建設課が住宅分野を踏襲するという形で話がまとまりました。

各事業についてはこれまでどおり各課が行っていきます。

住宅部会の各事業は、まち・ひとしごと創生総合戦略における「まち」を担うことが多く、また、各分野の担い手となる方々の「住環境」に関する事業でもあり、加えて、当計画以外の計画の中にある事業も多いことから、数値目標も検討いたしました。各事業が紐づく「産業の振興につながる目標数値」というのはなかなか設定が難しいという判断をさせていただきました。

第2期におきましても数値目標は設定せず、各課の施策を前に進め、総合戦略における2060年に人口30,800人の維持に向けて、結びつく取り組みを行っていきます。

戦略の柱ですが、「住環境の整備・支援」と「空き家対策への取り組み」という2つの柱を設定しております。「住環境の整備・支援」としては、これまで取り組んできた事業に引き続き取り組み、市内に所有し居住する個人住宅を対象としたリフォーム支援と市営住宅の生活環境の保全、及び公衆衛生の向上を行います。また、住宅の耐震化事業についても、引き続き行っていきます。

新たな取組としては、香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略における「人口維持」を目的とした『宅地整備事業』に取り掛かります。

この事業は、香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略と香南市都市計画マスタープランに位置付けられる予定であり、事業を進めていくには、移住施策や防災関係の各計画、担い手の現状把握、企業誘致、高齢者や障害のある方への対応等、さまざまな観点から協議を要することから、市役所内の関係各課とも十分に議論を重ね、方向性を確立し、事業に取り組んでいきたいと考えています。

また、「空き家対策への取組」も引き続き取り組むとともに、他部会からは、一時的な労働力の確保を進めていく場合の住む場所についてご意見もいただいているところでもありますので、総合的にその部分も考えながら進めて行きたいと考えております。以上です。

(赤池委員長)

ありがとうございました。それでは皆様からご意見等をいただきたいと思います。

(委員 2)

三宝山はどうなっているのでしょうか。

数年前から取り組まれていると思いますが、その後どうなったかを伺いたい。計画にあるヒルクライム等についてもネックになるのではないか。

(委員 17)

三宝山のお城のところは、もともと民間企業様がお持ちだった土地であります。その土地等は現在、香南市内の民間企業様が買収されているところ。現在は、観光を目的とした形での有効活用を進めていくと伺っている。市も協力できる部分があればということ協議をさせていただいている。

まだ具体的にこうであるということについて確定はしていない状況であると伺っている。

また、中腹の風車跡地については、井上ワイナリーさんが取り組みを進めていくということになっている。

(委員 11)

サイクリングについてですが、現在安芸市から夜須までサイクリングロードがありますが、前知事への提言によって、ヤ・シィパークから吉川町までの堤防を自転車道とする工事が今まに行われています。これが完成すればかなり人気を集めると思いますし、私の思いとしては、桂浜までの整備をしていただき、例えば、外国船等が来ていますが、その方々が自転車で香南市まで来れる環境づくりもできるのではないかとということで非常に期待をしています。ご報告になりますが、以上です。

(委員 12)

アンケート調査の件ですが、補足になります。DMOの方でもアンケート調査を4月以降に、エリアで統一したものを開催する方向で調整を行っています。項目については、記載されている内容とほぼ間違いはないのですが、連携のとり方については「共有をする」という認識ではなく、物部エリア全体のアンケートというようなことについて、取る目的といいますか、エリア内の周遊とかお客様の動向がわかりやすいというところの利点があると思います。

各市で取ると、どこから入ってきて、どこへ行ってというルートがわからないので、その動向を把握して、ターゲットがいるのか、それともどういった方が来ているかというところを計るとなりますと広域で取る必要があるのと思いますので、エリアのアンケートというところと各市が取りたいアンケートを平行に取るような調整をさせていただいているところ。

エリア全体のものと、各市のそれぞれの調査を全体のデータとして掘り起こす中で、地域全体の観光の人口をどう回せばよいかというような、今後戦略をたてやすくしていくというような、効果があると考えられますので、きっちりとした連携をもって進めて行きたい。また、以前、香南市ま

ち・ひとしごと創生総合戦略の策定委員も仰せつかっており、その場でも伝えてきたことですが、『受入態勢の強化』という漠然とした文言は、何を強化していくのかがわからない話をさせていた。だいた。「モノ」とか「コト」というのは、このエリアや香南市にも多くありますが、そこに「サービス」というものをプラスしていかないと人は動いてこない。

実際、サービスでお金を落とさせていただき仕組みを作っていないと、観光の位置づけとして地域が回っていないというお話も出ていた。ですから、『サービス』という文言を入れていただきたい。

サービスという言葉がなくても、今後「受入態勢の強化」の中で、各施設さんが様々なことを実施されていく中で、「サービスというものをお金に変える仕組み」というようなことを、一つ頭に入れていただいて、知識を向上していくというようなことを入れていくということを考えていっていただきたいと思います。以上です。

(赤池委員長)

ありがとうございました。そのほかにいかがでしょうか。

(委員 10)

弊社は自治体通信という自治体の先進事例をご紹介するメディアを6年ほど手掛けております。

お門違いかもしれないが、例えば、スポーツツーリズムに、「eスポーツ」は該当しませんか。

最近、このeスポーツが加速しそうだなどというところで、自治体さんも注目してきている。

高知県さんも積極的に行っているかもしれませんが、観光というのは「そこにある観光資源からどう展開していくか」という流れが基本的には大事であると思いますが、逆に、トレンドといいますか、そこから我々が折り込めそうなことを、順番的には逆かもしれませんが、企画発想していくような考えも面白いのではないかと感じている。

そのような動きは加速していくと言いますか、例えば、重要な観光施設等をeスポーツの会場にするですとか、そのような動きは流行っていくのかなと感じています。

(赤池委員長)

観光分野とサイクリングにつきましては、産業振興計画というところで『観光消費額』の単価を目標数値として検討していくためにアンケート調査を実施されるということでご理解いただいているところだと思います。一方で、観光サイクリングについては、健康であったり、関係人口、当然教育にも関わっていくところだと思います。

この部分については、上位計画でありますまち・ひとしごと創生総合戦略の中でご議論されているところだと思います。産業振興計画の中では、「消費額」や「産業」の部分を中心にご議論をされてきたと思います。

また、住宅分野につきましては、ご報告いただいたとおりだと思います。当計画で住宅部会が位置付けられた経緯もあると思います。

戦略の中で、これから第2期をどう検証していくのか事務局と相談も行っていきます。担い手はもちろん、地域の方が暮らす場所についてなくてはならない施策であることは十分に承知をしています

が、一方で、産業振興計画の中で、もしかしたら議論できる可能性があるとするのであれば「リフォーム事業や住宅の話であるならば、ハウスメーカーさんや建具屋さんであったり、林業の分野、その他の産業分野との連携みたいなのが、今のところ、住宅分野の中では産業的な連携が対象としておりませんので、今後こういった方向性で進んでいくのか、第2期にかけてしっかり議論していくところだと思います。

まち・ひとしごと創生総合戦略の「まち」を担っていることはよくわかるのですが、「しごと」の部分と住宅分野とのかかわりについて、もう一回検討してみても良いのではないかと感じたところでは。

その他、何かございますでしょうか。

(委員2)

サイクリング分野にお願いしたい。ブルーラインの意味という部分を住民の皆様に周知したほうが良い。現在、様々な色の線が引かれているが、規制線は白とオレンジのみである。

ブルーラインがどういうものか広報を強め、理解を得る取り組みを先に行っていくことで、受け入れられる流れになると思うので、よろしくをお願いしたい。

(委員7)

市内には自転車チーム Maze-cle さんがありまして、現在中心となって安全教室や自転車の知識向上の場を企画したり、様々な取組を進めています。その中で、市の広報誌の記事を連載されていますが、まさにブルーラインについてご紹介された記事もあったかと思います。サイクリング専門委員会でも持ち帰り議論を行いたいと思います。ありがとうございました。

(赤池委員長)

全ての分野についてご議論いただいたところですが、第1期から第2期に向けて、各部会の中でしっかりご議論いただき、目標数都につきまして、現状厳しい中で、高い数値を設定されたと理解しています。また各事業やKPIの設定につきましても、単純に量だけではなく「稼ぐ」という部分を意識いただき、金額ベースで数値を設定し、または、金額ベースでこれからの目標設置についてご議論いただいたと思います。担い手については、全ての分野で、第1期から引き続きご議論いただく「最重要課題」として認識しています。

最後に、第1期を踏まえて、実施主体について明記をしていただいたところですが、これを見ますとだれが責任を持って行うかが明確になった一方で、やはり、明記されているところが「香南市」もしくは「類する団体」や「地元の団体」になっていることがわかります。第2期を進めるにあたっては、他市町村との連携が必要になってくると思います。観光部会では3市連携という部分で進んでいる部分かもしれません。

香南市内の企業はもちろん、イシン（株）様のように市外企業様との連携も第2期と通じて、加筆・追加していくことが求められると思います。香南市は高知県内では、地理的にも産業的にも恵まれている自治体です。

私自身、東部の市町村と関わる人が多いのですが、既に人口減少が止まらず、それにより産業も

収縮している現状もあり、単独市町村だけでは解決に至らないケースが発生しています。現状だけではなく、将来の香南市も見据えながら、第2期の1つの方向性として、香南市や香南市内の企業や団体が中心となっていくことはもちろんですが、これから、香南市外、または他の自治体との連携や分野の連携というのを第2期の中で、実施主体の中に書き込めるように議論をしていきたいと思ひますし、部会の中でもご協議をいただきたいと思ひます。

それでは最後になりますが、本日頂いたご意見等を反映させ、第2期香南市産業振興計画という形で取りまとめをさせていただきたいと思ひます。このことについて、事務局と私に一任していただいてもよろしいでしょうか。

異議なし。→ 承認。

ありがとうございます。なお、策定された計画につきましては、令和2年度の会にてお示ししたいと思ひますのでよろしくお願いいたします。

以上で本日の議事はすべて終了いたしました。それでは事務局へマイクをお返しいたします。

(事務局)

赤池委員長をはじめ、委員の皆さまには長時間にわたり熱心なご議論ありがとうございました。

最後に「スケジュールのご説明」をさせていただきます。参考資料1をご覧ください。

資料の右から2列目にありますとおり、本日頂きましたご意見は各部会に持ち帰り、必要に応じて部会を開催し、そのうえで赤池委員長と事務局で調整を図らせていただき、今年度中に策定を行いたいと思ひますので、今後ご協力の程よろしくお願いいたします。それでは、閉会にあたりまして、田内副市長、よろしくお願い致します。

(田内副市長)

本日は長時間にわたり様々なご意見をいただきありがとうございました。

現在、市では、来年度の当初予算ということで、各課の取り組みを一通り伺ったところです。

今回の計画にもありましたが、新規事業というものも必要ですし、既存事業の拡充も必要です。

市には様々な計画がありますが、この産業振興計画は、今ある事業、施策の実施主体が比較的明確であり、市民全体というよりは、この事業はこの事業者、産業に携わる方を対象とするというのが見えてきます。各事業に取り組む中で、周知や告知の仕方、もっと言えばアプローチの仕方というのが大切であると感じておりまして、順調に進んでいる事業は、比較的アプローチがしっかりできていると感じている。市だけではなかなかできない面もありますので、本日お集まり頂きました皆様方にも是非その部分もご協力いただきたいと思ひますし、また、厳しいご意見やアイデアをいただきたいと思ひますので今後もよろしくお願い致します。ありがとうございました。

以上